

まく育たない」と痛感するようになり、土壌について学びたいと思うようになりました。会社の諸先輩方に土壌や肥料について教えてもらっていましたが、もっと深く学びたいと思っている時にこの土壌医検定に出会い、受験することになりました。

2 試験対策

試験は2月でしたが、仕事が忙しく勉強ができない日が続くこともあると思い、10月頃から勉強を始めました。テキストは発売されていますので、思い立ったらすぐに勉強にとりかかることができます。1級のテキストは287ページ有り、一日5ページ読むとして2か月近くかかります。土壌医検定1級・2級のテキストは、植物と土壌の関わりを色々なデータを基に分かりやすく書いてあります。今まで土壌について色々な本を読みましたが、現場に近く、実用的な内容が多いテキストだと思いました。知らなかった事や勉強になる内容も多く、自分の身近な問題と照らし合わせながら読み込みました。勉強方法としては、特別な方法はとらず1級のテキストを読んで重要だと思う所に下線を引く、と言う通常の勉強方法のみです。2級の試験の時は取りかかりが遅かったので、テキストを最後まで読むので精いっぱいでした。1級の試験の時は、せめて下線を引いた所を復習できるように、早めに取り組みました。テキストが分厚く中身が濃いので、なるべく早めに取り組むことがポイントだと思います。

3 1級受験レベル研修会

11月に1級試験対策として、日本土壌協会主催の2日間のセミナーが東京でありました。2014年は土・日曜日だったので、仕事に支障を来たすことなく受講出来ました。た

だ、月曜日も休みの三連休だったため、宿がどこも満室で手配に苦労しました。2015年も土・日曜日にあるようなので、受講する際は早めに宿を取られることをお勧めします。2014年は講義が1日半、課題に対する班ごとの意見交換会が半日行なわれ、1日目の夜には懇親会がありました。班ごとの意見交換会や懇親会の際は、様々な分野で土壌に関わる方々のお話を聞くことができ参考になりました。堆肥を製造している会社の方や、緑化作物を専門に扱っている方の専門的なお話など、教科書では学べない話が聞けました。このような方々を先生にして、専門的で実用的な講義があっても面白いように思いました。

4 業績レポート

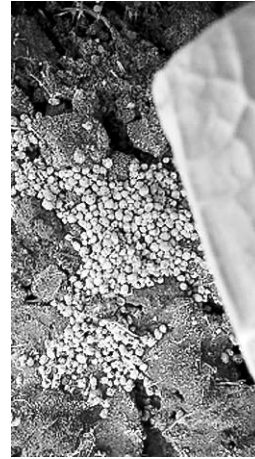
業績レポートは、①土づくり指導、②土づくりに関する調査・研究、③土づくりの実践の中から一つ選びますが、私は①の土づくり指導を選びました。業績レポートは40字×20行の800字にまとめないといけないのですが、自分の業績を沢山書きたいところを800字にまとめるのに苦労しました。私の場合、研究を行っているわけでは無いので、一つ大きな事、と言うより、細かい事が沢山ありました。そこで、データや写真は何枚添付してもよいため、データや写真が残っているものをピックアップして書くことにしました。結果、お客様からの作物が正常に生育しないとの相談を受け原因究明し、土壌を通じて改善して収穫が取れるようになった事例を2つ書きました。

①施設ナスが萎れて生育できない圃場の改善
生産者から、「定植後10日程経つが、ナスがどんどん萎れていく。青枯病だと思うのだが、一度診てほしい。」との相談を受けました。病気の診断をしたところ、青枯



生育不良のハクサイ

水田圃場で畝が高く、畝間には追肥が出来ない状態



株間畝上の追肥

溶けていず効いていない



結球せずに

収穫不可のハクサイ

病始め病原菌の検出はありませんでした。そこで、土壌のpHとECを簡易的に測ったところ、EC2.9、pH6.4とECが高く、塩類濃度障害によって萎れている可能性があることが判明しました。定植後でしたので、多めの灌水を行うことと、土が締まり酸素不足になることにより根痛みを助長する可能性があったため、改善策として酸素剤施用を数回行ってもらいました。その結果、萎れが改善し何とか収穫が出来ました。その作業が終わった後、除塩をしてもらい除塩後の土壌分析を行いました。まだECと硝酸態窒素、カリウムの数値が高い状態だったため、再度除塩をしてもらいました。次作の栽培では萎れることなく栽培できたという事でした。この事例は土壌分析データが残っていたので資料として添付しました。

②ハクサイが黄化して結球しない圃場の改善

お客様から「ハクサイが黄化したため、追肥したが改善しない、結球期なのに結球しない。」との相談を受けました。圃場を見に行くと畝の高さ50~60cm、畝間も1m位ありました。ハクサイは通常畝間に追肥し、中耕して土壌に混ぜるのですが、そ

れが出来ない状態でした。また、株間においてある肥料が溶けておらず効いていない状況でした。そこで追肥方法として穴肥えやばら蒔きを行ってもらったり、葉面散布肥料を数回散布してもらったのですが、気温が低いため肥効が現れず、結局は半分くらい結球せずに収穫できませんでした。その反省を踏まえ改善策として、次作はマルチをして地温を確保し、追肥が要らない40日タイプの肥料を基肥で施用してもらうことで、通常通り収穫可能になりました。こちらは写真が残っていたため、資料として添付しました。

③その他、添付資料の枚数に制限が無かったので、収量が伸び悩まれているダイズ生産者に対して、亜リン酸液肥を散布してもらい、品質向上した試験データも添付しました。

5 今後の目標

生産者と話す機会が多いのですが、その中で「土壌分析してますか?」と聞くと、「3年前くらいにやったかなあ」とか、「最近はいしばらくやっていないなあ」などの声を聴きます。土壌分析はよく「土壌の健康診断」と

比喻されることがあるのですが、全くその通りだと思います。美味しい作物・健康な野菜には、健全な土壌が重要だと思いますので、土壌医として、土壌にもっと向き合ってもらえるような取り組みをしていけたらと思っています。

6 おわりに

私自身土壌医検定を2級、1級と受験して、受験勉強を通じて、土壌と肥料×植物の関わりをさらに深く学ぶ事が出来ました。そして、会社全体で「土壌と肥料×植物」の知識を増やし、お客様・地域社会に役立つ会社を目指すため、昨年度は土壌医検定を全社員が

受験しました（延べ192名）。

また、土づくりの一環でもある土壌分析も会社として力を入れています。弊社土壌分析の特徴は、サンプル到着日から数えて2～7日以内に分析・報告する迅速さと精度の高さです。受け付けと分析は月～金曜日の通常営業日に行っています。計量士が常駐しており、計量事業登録も有りますので、分析数値を記入して報告できます。HPからも土壌分析の受け付けが出来る様に現在、準備を進めております。弊社の土壌分析にご興味頂けましたら、下記までお問い合わせしていただくと有難いです。

<http://www.ishiguro.co.jp/>